

2015年6月定例会

1 主導してきた政策について

(1) 任期後半を迎えた思い

昨年秋の地元メディアによる「伊原木知事就任2年Jの特集記事では、知事が主導してきた産業振興や県庁内の意識改善などに一定の評価が寄せられる一方で、若い民間出身知事ならではの斬新で柔軟な発想の面ではまだ物足りないとの論調もあった。知事自身も「県民の皆さんから変化が実感できるような変化幅には届いていない。」と述べているが、これらの評価なども含め、任期後半を迎えた思いを伺いたい。

民主・県民クラブの高橋議員の質問にお答えいたします。

主導してきた政策についてのご質問であります。

まず、任期後半を迎えた思いについてであります。私は就任以来、岡山県をもっと住みやすく元気にするため、教育の再生と産業の振興を最重要課題に掲げ、民間経営者としての経験を生かしながら一心に県政に取り組んでまいりました。

任期の後半に入った現在、企業誘致や教育の再生などの面で、これまで播いてきた種が様々な形で芽吹きはじめており、県民生活の充実に向けた好循環が動き出した手応えを感じているところであります。

今後とも、一つひとつ成果を積み上げ、「岡山がよくなってきた。元気になってきた。」と県民の皆様に変化を実感していただけるよう全力で取り組み、全ての県民が明るい笑顔で暮らす「生き生き岡山」の実現を目指してまいりたいと存じます。

1 主導してきた政策について

(2) 伊原木カラー

メディアでは、安倍カラーや橋下イズムなど、政治家の考え方や政策などを個人名と組み合わせる造語が使用される。知事は、伊原木カラー、伊原木イズムをどのようなものと考えているのか。また、今後、伊原木カラー、伊原木イズムを発揮していきたい政策や取組などがあれば、併せて伺いたい。

次に、伊原木カラーについてであります。カラーやイズムは自ら称するものではないと思いますが、私が、常々心がけていることは、前例にとらわれず、また、パフォーマンスに走ることなく、エビデンス、即ち科学的根拠に基づき、顧客である県民の幸せにつながる政策判断を行い、メリハリをつけた施策を実施することです。

県政の最重要課題である教育の再生と産業の振興についても、こうした観点に立ち、コスト意識、スピード感を持って、全力で取り組んでまいりたいと存じます。
以上でございます。

2 人口減少対策等について

(1) 雇用対策

ア 生き活き指標の見直し等

県内の労働市場は、全体としては「買い手市場」から「売り手市場」に変わっているが、それに対応した政策転換が図られているか。求職者の減少が有効求人倍率を引き上げる要因になっている場合、有効求人倍率の上昇は必ずしも雇用の創出・拡大につながらない。現下の雇用情勢を踏まえ、生き活き指標の雇用拡大プログラムの目標を修正することも必要だが、指標の見直しや運用改善について、併せて所見を伺いたい。

お答えいたします。

人口減少対策等についてのご質問であります。

まず、雇用対策のうち生き活き指標の見直し等についてであります。有効求人倍率など雇用拡大プログラムの指標は、県内における雇用状況や県が実施する施策の達成度を測ることができる有用な指標であり、見直しは考えていないところであります。

ただ、現在の雇用情勢を踏まえると、議員ご指摘のとおりであり、面接会でのマッチングや職業訓練による職業能力開発、県内外大学生の定着、女性の活躍促進など、生き活き指標の達成につながる人材の供給面での取組を進め、雇用の創出・拡大につなげてまいりたいと存じます。

2 人口減少対策等について

(1) 雇用対策

イ 人材確保の支援等

県の雇用政策における喫緊の課題は、「人手不足分野における人材確保の支援」、「正社員求人の充足対策と正社員就職を希望する人に対する就労支援」、「地域別求人倍率の格差解消のための取組」だが、これらの課題に対する取組を伺いたい。

次に、人材確保の支援等についてであります。まず、人材不足分野への対応については、就職面接会の開催や無料職業紹介のほか、特に有効求人倍率の高い、建設や福祉・介護分野については、関係団体などとも連携し、求人・求職のマッチングやセミナーの開催などに取り組んでおります。次に、正社員の求人・求職に係る対応については、経済団体に対して、私自ら、正社員転換の促進などを要請するとともに、おかやま若者就職支援センターの活動を通じて、正規雇用の推進を図っているところであります。次に、地域別の対応については、これまでも、県内各地の雇用状況に応じて地域別の就職面接会を開催しており、また、今年度は、女性を対象とした面接会も県内10会場で開催することとしているところであります。

今後とも、労働局など関係機関と連携しながら、議員お話の課題の解消に向けた取組を進めてまいりたいと存じます。

2 人口減少対策等について

(2) 企業誘致等の推進

ア労働力の確保

総社市では、大型の企業進出が相次ぎパートなどの確保に難航する事業所が増えている。企業が進出する際、必要な労働力の確保は重要な検討要件だが、総社市のような事例に対する問題意識と対策について、産業労働部長に伺いたい。

企業誘致等の推進のうち労働力の確保についてであります。人口減少社会を迎え、高齢化も進む中で、労働者の確保が困難となる状況が発生することは、本県経済の発展に大きな影響を与えるものと認識しております。

このため、県では、若者等の本県への還流・定着を図るため、高校生を対象とした企業説明会を実施するほか、新たに、県外での合同企業説明会の開催や県内外の大学生を対象とした、インターンシップや企業見学バスツアーを実施することとしているところであります。また、子育て期の女性が多様な働き方ができるよう、パートも含めた就職相談会・面接会を県内各地で開催することとしており、今後とも、関係機関と連携しながら、こうした取組をさらに充実させ、労働力の確保・定着に努めてまいりたいと存じます。

2 人口減少対策等について

(2) 企業誘致等の推進

イ土地活用の在り方

工場や商業施設の誘致、住宅開発を進めるために土地活用の規制を緩和する要望があるが、他方で、集約型都市構造への転換を図るために規制や誘導を強化すべきだとの意見もある。土地活用に関する規制の強化と緩和のバランスの問題だ。これは、複数の部門にまたがる政策課題であり、部門横断型プロジェクトであるおかやま創生総合戦略推進本部で議論されるべきテーマだ。今後の土地活用の在り方について、所見を伺いたい。

次に、企業誘致等の推進のうち土地活用の在り方についてであります。岡山県南広域都市計画区域マスタープランでは、人口減少や少子化・高齢化社会に対応した集約型都市構造への転換と、産業振興による活力ある都市づくりを目指し、原則として市街化のさらなる拡大を抑制するとともに、秩序ある土地利用のもとで計画的に産業の振興を図ることとしております。

土地活用の在り方については、規制緩和が地域経済の活性化につながる可能性もある一方無秩序な開発や既成市街地の空洞化につながるおそれもあることから、人口減少社会に対応した活力あるまちづくりが図られるよう、市・町等の意見を伺いながら、慎重に検討してまいりたいと存じます。

2 人口減少対策等について

(3) 県内で働くことの魅力向上

おかやま創生総合戦略素案では、人口の社会減対策として「人を呼び込む魅力ある郷土岡山づくりの推進」を掲げているが、項目の中に「岡山県内で働くことの魅力向上」という視点を加えてほしいが、いかがか。

また、若者の定着などを促進するためには、職場の魅力向上が重要であり、社員の処遇改善の取組をサポートする事業の検討はできないか。さらに、働く人にとって魅力的な「働き方改革」を推進することは、おかやま創生をめぐる複数の課題に同時にアプローチできる効果の高い取組だが、併せて所見を伺いたい。

次に、県内で働くことの魅力向上についてであります。おかやま創生総合戦略素案にその視点を加えることについては、自然減対策の子育て世代にやさしい職場環境づくりや若い世代におけるワーク・ライフ・バランスの中にその趣旨を盛り込んでいることから、社会減対策に改めて盛り込むことはしていないところであります。

また、社員の処遇改善については、経済団体などに対して職場環境整備を要請するとともに、企業などを対象に育児・介護や時間外労働などについてのガイドブックの配布や労働

教育講座の開催にも取り組んでいるところであり、今後も職場の魅力向上に向けた施策の推進を図ってまいります。

さらに、働き方改革については、仕事と生活の調和など人口減少対策にも資するものと考えており、今後とも、岡山労働局など関係機関と連携して取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

3 ひとり1改善運動について

ひとり1改善運動の改善・提案件数は、平成25年度886件から平成26年度530件へと大きく減っている。知事部局の職員が非正規を合わせ約4,200人いる中で、この数字をどう捉えているか。また、こうした活動は、工夫を重ね、粘り強く取り組まないと先細りになりがちだ。この運動に対する思いと継続していく上での工夫について、併せて伺いたい。

お答えいたします。

ひとり1改善運動についてのご質問ですが、この運動は、職員一人ひとりが日頃から業務を遂行するに当たって問題意識を持ち、自主的に改善に取り組むことを促すものであり、件数にはこだわっておりません。

私は、この運動により、県庁全体に改善を生み出す組織風土を根付かせ、より質の高い組織に変えたいとの強い思いを持っており、今後とも、改善のヒントや事例の紹介に加え、テーマを設けた重点月間の拡充などにより、職員の積極的な取組を促進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

4 おかやまマラソンについて

顧客重視というならば、ランナーの立場での大会運営という視点を忘れてはならないが、申し込みがランナーの大半が活用しているサイトでできなかったのは残念であり、次年度以降改善を求めたい。経験上、大会の印象の良し悪しは、事前案内の親切さ、アクセス、スタッフの態度などが大きく影響する。また、岡山駅などとのシャトルバスは必須だ。ランナー目線で点検し、精度を上げるための取組について、シャトルバスも含め所見を伺いたい。

お答えいたします。

おかやまマラソンについてのご質問であります。市民ランナーの立場から様々な提言をいただきありがとうございます。ランナーの申し込みにつきましては、事務局にも同様のご意見もいただいているところであります。

また、交通アクセス、受付体制、会場内の案内や誘導、フィニッシュ後のシャトルバスの運行の可否などについては、現在、詰めの調整・作業を行っているところであり、ランナーの立場に立った大会運営となるよう、スペシャルアンバサダーの有森裕子さんや、実行委員会の構成団体など関係者のお知恵もお借りしながら、準備を進めてまいりたいと考えております。

さらに、大会スタッフ、ボランティアのランナーなどへの対応についても、大会の印象を大きく左右するものと考えており、大会前に開催する研修に、他大会での経験者の意見を十分取り入れることにより、来場者の立場に立ったおもてなしができるよう努め、第1回大会を是非とも成功させるよう全力を尽くしてまいりたいと存じます。

以上でございます。